

投資信託説明書 (交付目論見書)

使用開始日 2024.10.9



地球ゴマ
[愛称]

三菱UFJ 資産設計ファンド (分配型) / (バランス型) / (株式重視型)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

※ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型) / (バランス型) / (株式重視型)は、信託約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)する予定です。くわしくは、表紙裏面「追加的記載事項」をご確認ください。

ファンド	商品分類			属性区分				
	単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産(収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
分配型	追加型	内外	資産複合	その他資産	年6回(隔月)	グローバル(日本を含む)	ファンド・オブ・ファンズ	なし
バランス型					年4回			
株式重視型					年2回			

※属性区分の「投資対象資産」に記載されている「その他資産」とは、投資信託証券(資産複合(株式、債券、不動産投信、通貨))です。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いませんが、投資対象に適した、為替ヘッジを行わない投資信託証券が存在しない場合には、為替ヘッジを行う投資信託証券へ投資することがあります。

※商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

- 本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。
- 本書には、約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されています。
- ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認します。
- ファンドの財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。
- 請求目論見書は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。(請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようお願いいたします。)

この目論見書により行う「三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)」、「三菱UFJ 資産設計ファンド(バランス型)」、「三菱UFJ 資産設計ファンド(株式重視型)」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2024年4月8日に関東財務局長に提出しており、2024年4月9日に効力が生じております。

委託会社:三菱UFJアセットマネジメント株式会社

ファンドの運用の指図等を行います。

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第404号

設立年月日:1985年8月1日

資本金:20億円

運用投資信託財産の合計純資産総額

37兆6,593億円 (2024年7月31日現在)

ホームページアドレス

<https://www.am.mufig.jp/>

お客さま専用フリーダイヤル

0120-151034 (受付時間:営業日の9:00~17:00)

受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理等を行います。

三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)／(バランス型)／(株式重視型)の 繰上償還の予定について

今後の商品性維持が困難かつ、(分配型)および(株式重視型)についてはファンドの受益権口数が信託約款に定められた口数を下回っており、償還することが受益者の皆様にとって有利であると認められるため、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき2024年10月10日現在の受益者の皆さま(2024年10月8日までに、購入のお申込みの受付を完了された方が対象となります。)に、2025年1月9日付けで繰上償還することについての意向を確認する手続きを2024年10月10日から2024年11月25日まで行います。

当該期間中に償還に反対された受益者の皆さまの受益権の合計口数が2024年10月10日現在のファンドの受益権総口数の半数を超えない場合、ファンドは繰上償還となり、購入のお申込みの受付を2025年1月7日までとします。また、否決された場合、ファンドを継続する旨を公告するとともに、2024年10月10日現在の受益者の皆さまにその旨を記載した書面を交付いたします。

繰上償還決定の可否につきましては、2024年11月26日に委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/>)にてお知らせいたします。

ご留意事項

繰上償還が決定した場合、本書「手続・手数料等 お申込みメモ」に記載する以下の項目については、内容が以下のとおり変更となります。

購入の申込期間	2024年4月9日から2025年1月7日まで
信託期間	2025年1月9日まで(2007年3月28日設定)

ファンドの購入に際しては、本記載を十分にご認識の上、お申込み下さいますようお願い申し上げます。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

「三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)」

世界の株式・債券・オルタナティブ資産を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、安定した収益の確保と着実な値上がり益の獲得をめざします。

「三菱UFJ 資産設計ファンド(バランス型)」

世界の株式・債券・オルタナティブ資産を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、着実な値上がり益の獲得と安定した収益の確保をめざします。

「三菱UFJ 資産設計ファンド(株式重視型)」


世界の株式・債券・オルタナティブ資産を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色



世界の株式・債券といった伝統的資産のみならず、不動産投資信託・絶対収益追求型運用といったオルタナティブ資産を加えた幅広い投資対象に分散投資します。

- 各資産内においては、株式・債券では地域・種別毎に7つの資産クラス、オルタナティブ資産では不動産投資信託(REIT)および絶対収益追求型運用の2つの資産クラスとした合計9つの資産クラスに分けてそれぞれ投資を行います。
- 実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。
ただし、投資対象に適した、為替ヘッジを行わない投資信託証券が存在しない場合には、為替ヘッジを行う投資信託証券へ投資することがあります。
その場合、当該投資信託証券における組入外貨建資産については為替相場の変動による影響が低減されるため、ファンド全体では為替相場の変動の影響が小さくなります。

 債券とは、国債、政府機関債、国際機関債、地方債、社債ならびにハイイールド債券(格付会社によりBB格相当以下の低い格付けを付与された社債)などをいいます。

 投資対象とする資産クラスおよび投資比率は、ファンドによって異なります。

オルタナティブ資産への投資

「オルタナティブ」とは「～の代わりに、代替」と訳され、投資の世界で「オルタナティブ資産」というと、株式や債券といった伝統的資産とは異なる値動きが想定される投資対象資産もしくは運用手法のことをいいます。こうした値動きの異なる資産を伝統的資産と組み合わせることで分散投資の効果をねらいます。

ファンドにおけるオルタナティブ資産とは・・・

<代替投資対象資産>
不動産投資信託(REIT)

<代替運用手法>
絶対収益追求型運用

<代替投資対象資産>

不動産投資信託(REIT)

不動産投資信託証券とは、不動産投資法人の投資証券または不動産投資信託の受益証券をいいます。多数の投資家から資金を集めて不動産を所有、管理、運営し、そこから生じる賃貸料収入や売却益を投資家に分配する商品で、一般的にREIT(リート:Real Estate Investment Trust)と呼ばれています。分配金の原資は主に多数の物件からの賃貸料収入などです。

■ 不動産投資信託(REIT)の運用イメージ

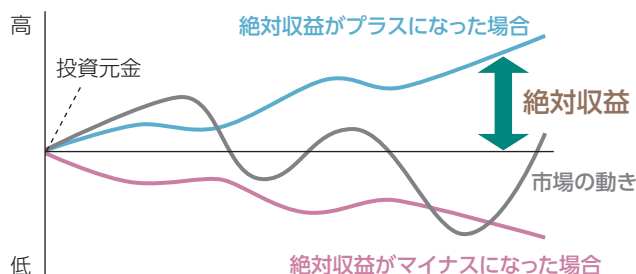


<代替運用手法>

絶対収益追求型運用

絶対収益追求型運用とは、市場の動きを上回ることが目的でなく、投資元金に対する収益を追求することを目的とした代替運用手法です。世界の株式・債券・通貨を取引対象とし、運用者の割安・割高の判断に基づくロング・ショート戦略を行うことにより、市場全体の上下動にかかわらず収益を獲得することを目標とします。そのため、投資成果は運用者の判断に大きく依存します。

■ 絶対収益追求型運用の運用イメージ



❗ 上図は理解を深めていただくことを目的とした概念図であり、運用の成果をお約束するものではありません。

📖 ロング・ショート戦略とは、主に割安と判断される資産または通貨を買い建て(ロング)、割高と判断される資産または通貨を売り建てる(ショート)投資手法です。買い建てた資産または通貨の価格上昇による収益獲得機会だけでなく、先物等売り建てた資産または通貨の価格下落による収益獲得機会を追求します。

❗ 世界の株式・債券・通貨を取引対象としますが、実際の運用にあたっては、株価指数先物、為替予約取引等を活用します。また、絶対収益追求型運用とは、絶対に収益が上がるという意味ではありません。

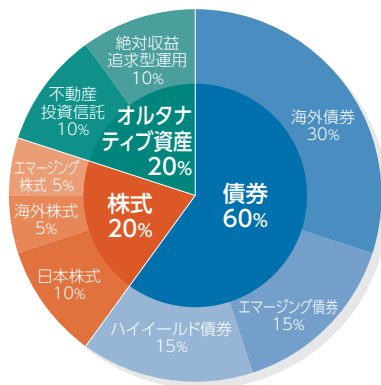


お客様の投資目標に合わせて、投資対象とする資産クラスおよび投資比率が異なる、「分配型」「バランス型」「株式重視型」の3ファンドをご用意いたします。

各ファンドの基本方針と 基本投資割合

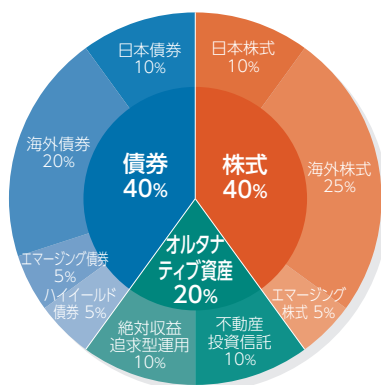
【分配型】

安定した利子収入が期待される債券を組み入れの中心とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長とともに、隔月での収益分配をめざします。



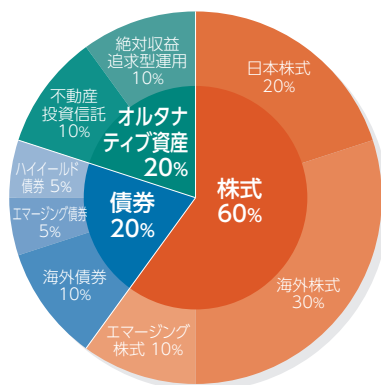
【バランス型】

成長性が期待される株式と、安定した利子収入が期待される債券をバランスよく組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。



【株式重視型】

成長性が期待される株式を組み入れの中心とし、信託財産の成長をめざします。



それぞれのファンド間でスイッチング(乗換え)可能

- 各資産の種類および資産クラスへの投資比率は上図の通りとすることを基本としますが、実際の投資比率は、基本投資割合からカイ離する場合があります。また、各資産においては、複数の資産クラスに分け投資を行います。また、各資産の投資比率は市場環境の変化等により見直しを行う場合があります。

❗ スwitchingの際には、換金するファンドに対して信託財産留保額および税金がかかります。

☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ

(https://www.am.mufg.jp/investment_policy/fm.html) でご覧いただけます。



投資信託の調査・評価の専門会社である三菱アセット・ブレインズ株式会社から助言を受け、各資産クラスについて厳選した投資信託証券(ファンド)を組み入れます。

- 同一資産クラス内の投資信託証券への投資にあたっては、運用特性の分析により複数の投資信託証券を組み合わせて分散投資を行うことがあり、組入比率については、三菱アセット・ブレインズ株式会社からの助言に基づき決定します。また、投資信託証券は、定性・定量評価等により適宜見直しを行います。

<投資対象とする投資信託証券(指定投資信託証券)>

資産	資産クラス	投資対象とする投資信託証券
株式	日本株式	三菱UFJ 日本株スタイル・ミックス・ファンドF (適格機関投資家限定) ストラテジック・バリュー・オープンF (適格機関投資家専用) GIMザ・ジャパン (適格機関投資家専用)
	海外株式	MFS外国株グロース・ファンドF (適格機関投資家専用)
	エマージング株式	シュローダー・グローバル・エマージング株式ファンドF (適格機関投資家専用) GIMエマージング株式ファンドF (適格機関投資家専用)
債券	日本債券	三菱UFJ 日本債券ファンドF (適格機関投資家限定) ノムラ日本債券オープンF (適格機関投資家専用)
	海外債券	グローバル債券コア・ファンド (適格機関投資家専用)
	エマージング債券	アライアンス・バーンスタイン・エマージング市場債券ファンドB (適格機関投資家専用)
	ハイイールド債券	ベアリングス・グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド*
オルタナティブ資産	不動産投資信託	MUAM J-REITマザーファンド MUAM G-REITマザーファンド
	絶対収益追求型運用	グローバル・アセット・モデル・ファンドF (適格機関投資家専用)

*為替ヘッジを行う投資信託証券です。

- ❗ 「資産クラス」は、各投資信託証券の主要投資対象もしくは運用手法です。
- ❗ 上図は投資対象とする投資信託証券の一覧です。今後変更となる場合があります。
上図に掲げるすべての投資信託証券に投資を行うとは限りません。

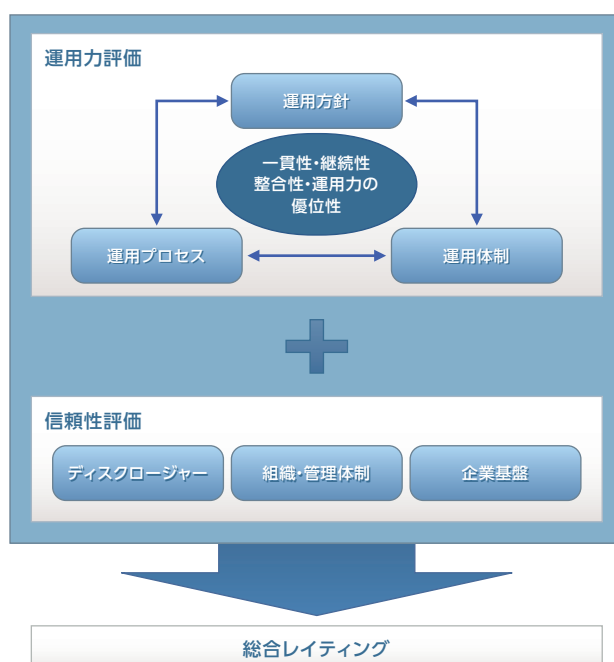
[三菱アセット・ブレインズ株式会社とは]

MAB MITSUBISHI ASSET BRAINS

- ・1998年12月に設立された、投資信託の調査・評価等を行う専門会社
- ・「公平」「中立」「透明性」を確保し、客観的な基準による独自の絶対評価基準に基づき、定性評価を実施

- ❗ 投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無等については、変更する場合があります。

<三菱アセット・ブレインズ株式会社の投資信託証券の評価・選定のポイント>



(出所)三菱アセット・ブレインズ株式会社

特色4

「分配型」は年6回、「バランス型」は年4回、「株式重視型」は年2回、毎決算時に分配を行います。

- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- 「分配型」は、原則として配当等収益等を中心に安定した分配をめざします。ただし、毎年5・11月の決算時には、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。
- 「バランス型」および「株式重視型」は、原則として配当等収益や分配対象額の水準等を考慮し、安定した分配を継続することをめざします。また、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。
- 各ファンドについて分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、基準価額水準、運用状況等によっては安定した分配とならないことがあります。

<分配のイメージ図>



❗ 上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

- ◆ 「分配型」の決算日は、1・3・5・7・9・11月の各9日(休業日の場合は翌営業日)とします。
- ◆ 「バランス型」の決算日は、1・4・7・10月の各9日(休業日の場合は翌営業日)とします。
- ◆ 「株式重視型」の決算日は、1・7月の各9日(休業日の場合は翌営業日)とします。

📖 配当等収益等は、経費等控除後の配当等収益のほか、収益調整金および分配準備積立金の一部を含みます。

📖 「分配型」のボーナス分配とは、5・11月の決算時に、2ヵ月毎の安定分配相当額に上乘せして行う分配です。なお、ボーナス分配を行わない場合があります。

収益分配金に関する留意事項

- ◆分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



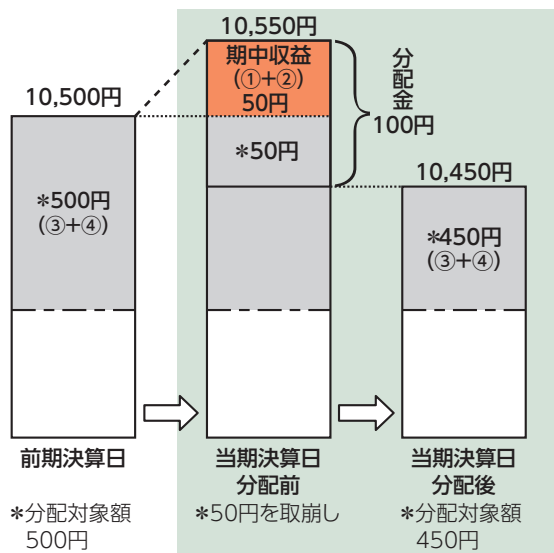
- ◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

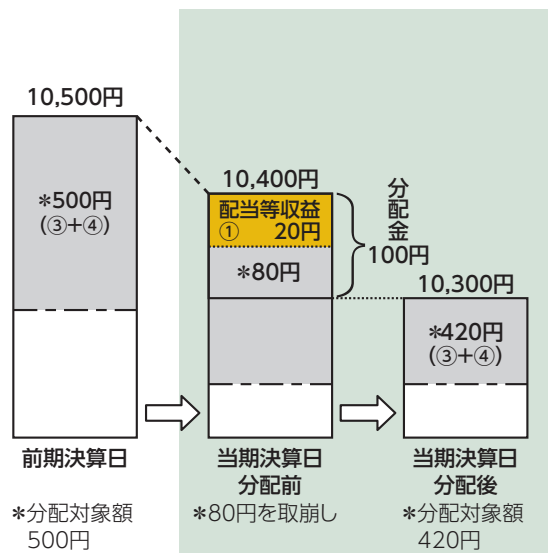
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



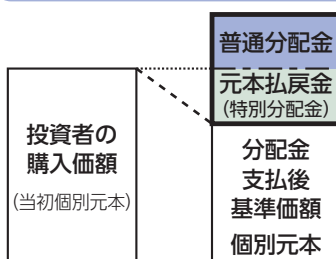
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

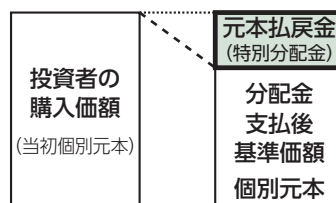
- ◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金 (特別分配金) は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金 (特別分配金) 部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



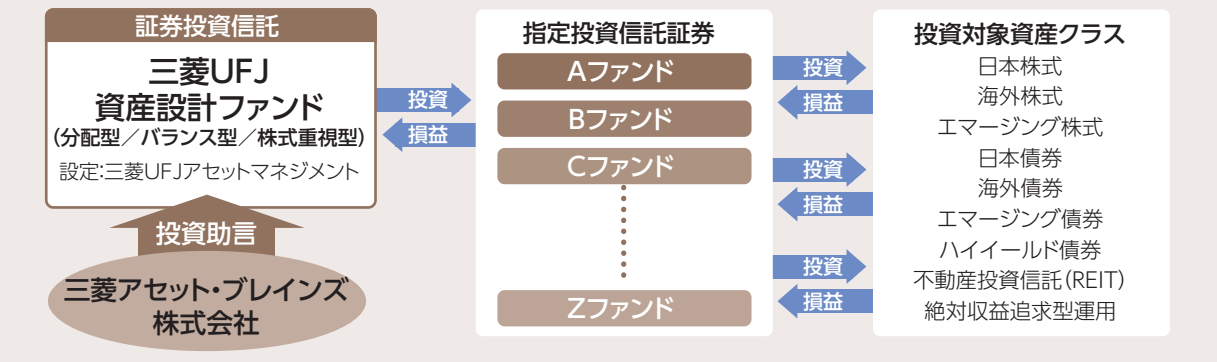
普通分配金: 個別元本 (投資者のファンドの購入価額) を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金 (特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金 (特別分配金) の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

■ ファンドの仕組み

運用はファンド・オブ・ファンズ方式により行います。



！ 上図はファンド・オブ・ファンズの仕組みを説明するためのイメージ図です。

■ 主な投資制限

株式	株式への直接投資は行いません。
投資信託証券	投資信託証券への投資割合に制限を設けません。
外貨建資産	外貨建資産への直接投資は行いません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

■投資対象とする投資信託証券

<日本株式>

ファンド名	三菱UFJ 日本株スタイル・ミックス・ファンドF (適格機関投資家限定)
ベンチマーク	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)
委託会社	三菱UFJアセットマネジメント株式会社

ファンド名	ストラテジック・バリュー・オープンF (適格機関投資家専用)
ベンチマーク	ありません。
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社

ファンド名	GIMザ・ジャパン(適格機関投資家専用)
ベンチマーク	TOPIX(配当込み)
委託会社	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

<海外株式>

ファンド名	MFS外国株グロース・ファンドF (適格機関投資家専用)
ベンチマーク	ありません。
委託会社	MFSインベストメント・マネジメント株式会社(マザーファンドの投資運用会社:マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニー)

<エマージング株式>

ファンド名	シュローダー・グローバル・エマージング株式ファンドF (適格機関投資家専用)
ベンチマーク	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
委託会社	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社(マザーファンドの投資運用会社:シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド)

ファンド名	GIMEマージング株式ファンドF (適格機関投資家専用)
ベンチマーク	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(税引後配当込み、円ベース)
委託会社	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(マザーファンドの投資運用会社:J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク)

<日本債券>

ファンド名	三菱UFJ 日本債券ファンドF (適格機関投資家限定)
ベンチマーク	NOMURA-BPI総合インデックス
委託会社	三菱UFJアセットマネジメント株式会社

ファンド名	ノムラ日本債券オープンF (適格機関投資家専用)
ベンチマーク	NOMURA-BPI総合
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社

<海外債券>

ファンド名	グローバル債券コア・ファンド(適格機関投資家専用)
ベンチマーク	ブルームバーグ・グローバル総合インデックス(除く日本円、円ベース)
委託会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(マザーファンドの投資運用会社:ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピーおよびゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(シンガポール)ピーティーイー・リミテッド)

<エマージング債券>

ファンド名	アライアンス・バーンスタイン・エマージング市場債券ファンドB(適格機関投資家専用)
ベンチマーク	JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル(円換算指数)
委託会社	アライアンス・バーンスタイン株式会社(マザーファンドの投資運用会社:アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー、アライアンス・バーンスタイン・リミテッド、アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッドおよびアライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド)

<ハイイールド債券>

ファンド名	ベアリングス・グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド
ベンチマーク	ICE BofA ノンフィナンシャル・デベロップド・マーケット・ハイイールド・コンストレインド・インデックス(円ヘッジあり、円ベース)
委託会社	ベアリング・アセット・マネジメント・リミテッド、ベアリングス・エルエルシー


*為替ヘッジを行う投資信託証券です。


<不動産投資信託>

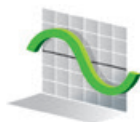
ファンド名	MUAM J-REITマザーファンド
ベンチマーク	東証REIT指数(配当込み)
委託会社	三菱UFJアセットマネジメント株式会社
ファンド名	MUAM G-REITマザーファンド
ベンチマーク	S&P先進国REITインデックス(除く日本、配当込み、円換算ベース)
委託会社	三菱UFJアセットマネジメント株式会社

<絶対収益追求型運用>

ファンド名	グローバル・アセット・モデル・ファンドF(適格機関投資家専用)
ベンチマーク	1ヵ月円TIBOR
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社

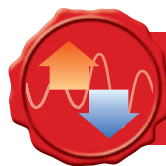
 今後、上記の記載内容が変更となる場合、または繰上償還等により除外される場合、あるいはここに記載されたもの以外の投資信託証券が新たに追加となる場合があります。

 ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。



指数について

- ・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)、TOPIX (配当込み) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックス (円ベース) とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されているインデックスを円換算したものです。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。
MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース) は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、米ドルベース) をもとに、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が計算したものです。
また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。
- ・NOMURA-BPI総合インデックス、NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ・ブルームバーグ・グローバル総合インデックス (除く日本円、円ベース) とは、ブルームバーグが算出する世界の投資適格債券 (円建てのものを除く) の値動きを表す指数です。
ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社 (以下「ブルームバーグ」と総称します。) のサービスマークであり、三菱UFJアセットマネジメントによる一定の目的での利用のためにライセンスされています。ブルームバーグの指数はブルームバーグが算出し、配信し、販売するものです。ブルームバーグは、三菱UFJアセットマネジメントの関係会社ではなく、ブルームバーグは、三菱UFJアセットマネジメントが運用するファンドを承認し、是認し、レビューしまたは推奨するものではありません。ブルームバーグは、ブルームバーグの指数に関連するいかなるデータまたは情報の適時性、正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル (円換算指数) とは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、エマージングマーケット債市場の代表的なインデックスを円換算したものです。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。
- ・ICE BofA ノンフィナンシャル・デベロップド・マーケット・ハイイールド・コンストレインド・インデックス (円ヘッジあり、円ベース) とは、ICE Data Indices, LLC、ICE Dataまたはその第三者の財産であり、三菱UFJアセットマネジメントは許諾に基づき使用しています。ICE Dataおよびその第三者は、使用に関して一切の責任を負いません。
- ・東証REIT指数 (配当込み) とは、東京証券取引所に上場している不動産投資信託全銘柄を対象として算出した東証REIT指数に、分配金支払いによる権利落ちの修正を加えた指数です。
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証REIT指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- ・S&P先進国REITインデックスとは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが有するS&Pグローバル株価指数の採用銘柄の中から、不動産投資信託 (REIT) 及び同様の制度に基づく銘柄の浮動株修正時価総額に基づいて算出される指数です。
S&P先進国REITインデックス (除く日本、配当込み、円換算ベース) は、S&P先進国REITインデックス (除く日本、配当込み) をもとに、委託会社が計算したものです。
S&P先進国REITインデックスはS&P Dow Jones Indices LLC (「SPDJ」) の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJアセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC (「S&P」) の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC (「Dow Jones」) の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが三菱UFJアセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。当ファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P先進国REITインデックスの誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。
- ・1ヵ月円TIBORは、円短期金利の代表的な指標の一つで、東京市場で大手銀行が相互に資金を貸しつける際に適用する金利です。



投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動し、また、不動産投資信託証券の価格は保有不動産等の価値やそこから得られる収益の増減等により変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債、組入不動産投資信託証券の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

為替変動 リスク

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。

ただし、投資対象に適した、為替ヘッジを行わない投資信託証券が存在せず、為替ヘッジを行う投資信託証券へ投資する場合には、当該投資信託証券における組入外貨建資産について為替相場の変動による影響が低減されるため、ファンド全体では為替相場の変動の影響が小さくなります。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分がヘッジコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

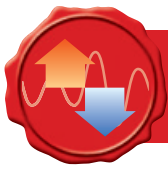
流動性 リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。また、不動産投資信託証券は、株式と比べ市場規模が小さく、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。

カントリー・ リスク

新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、価格変動・為替変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

投資対象とする投資信託証券には、格付けの低いハイイールド債券を主要投資対象としているものがあり、格付けの高い公社債への投資を行う場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる場合があります。



投資リスク

■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

■リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会においてそれらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を検討しています。また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

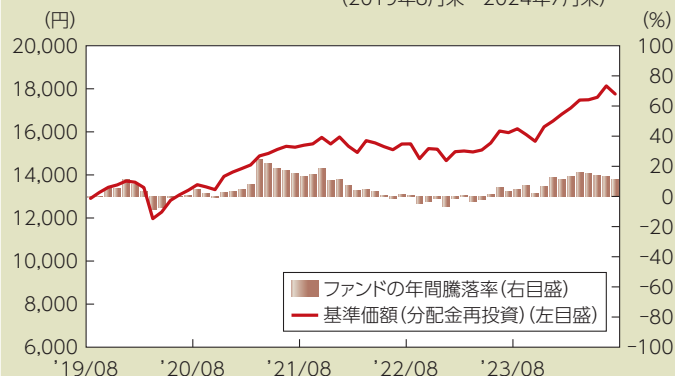
■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)

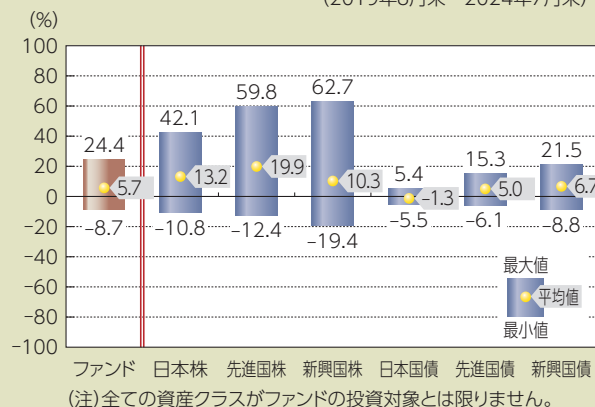
● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2019年8月末～2024年7月末)



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年8月末～2024年7月末)

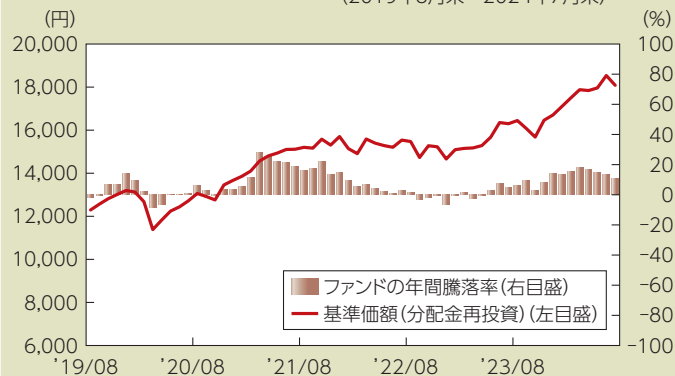


- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ 資産設計ファンド(バランス型)

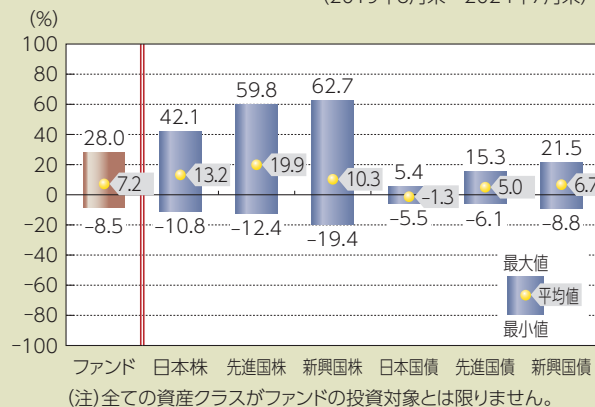
● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2019年8月末～2024年7月末)



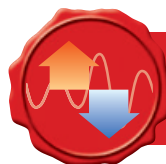
● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年8月末～2024年7月末)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

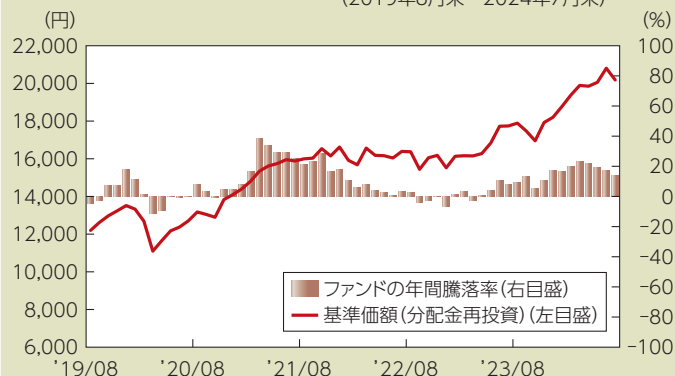


投資リスク

三菱UFJ 資産設計ファンド(株式重視型)

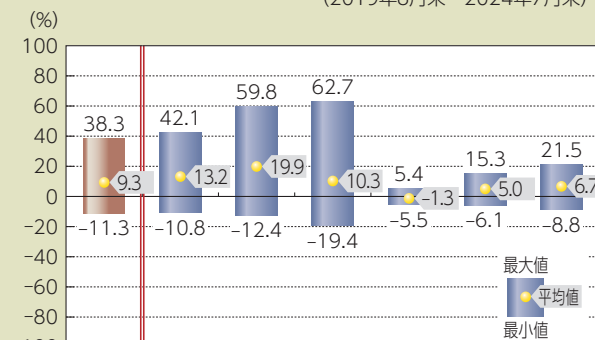
● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

(2019年8月末～2024年7月末)



● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2019年8月末～2024年7月末)



(注)全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

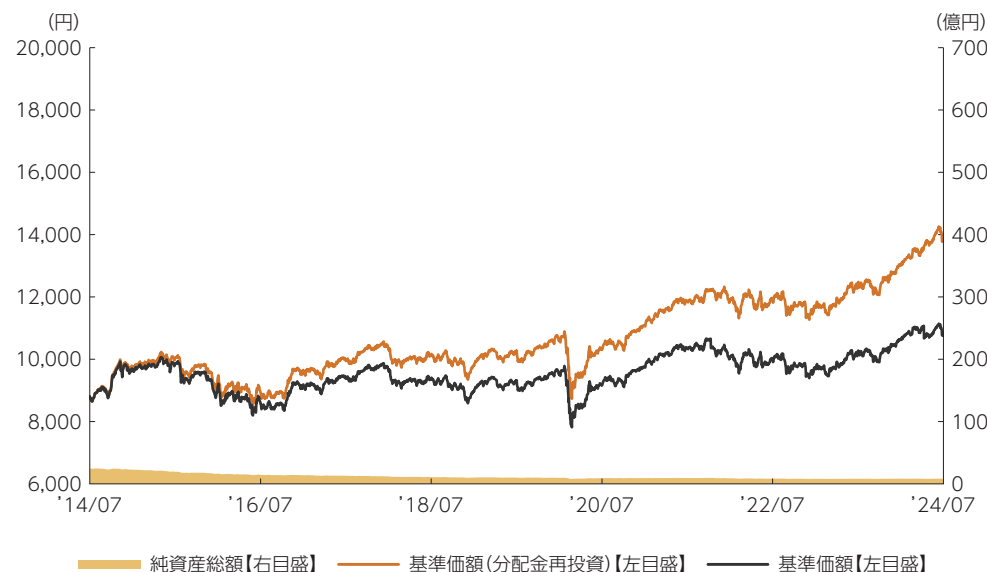


運用実績

2024年7月31日現在

三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)

■基準価額・純資産の推移 2014年7月31日～2024年7月31日



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,758円
純資産総額	8.1億円

・純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2024年 7月	30円
2024年 5月	415円
2024年 3月	30円
2024年 1月	30円
2023年 11月	30円
2023年 9月	30円
直近1年間累計	565円
設定来累計	4,245円

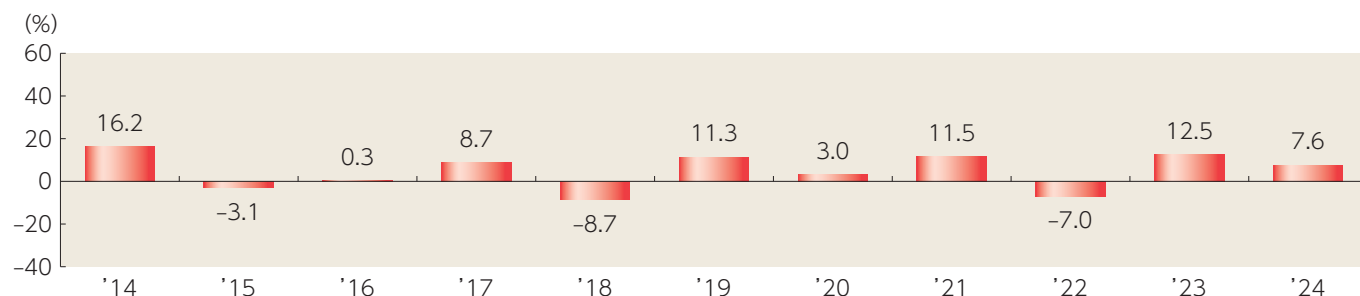
・分配金は1万円当たり、税引前

■主要な資産の状況

組入上位銘柄	資産クラス	比率
1 グローバル債券コア・ファンド(適格機関投資家専用)	海外債券	29.5%
2 ベアリングス・グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド	ハイイールド債券	14.8%
3 アライアンス・バーンスタイン・エマージング市場債券ファンドB(適格機関投資家専用)	エマージング債券	14.7%
4 グローバル・アセット・モデル・ファンドF(適格機関投資家専用)	絶対収益追求型運用	9.9%
5 MUAM G-REITマザーファンド	不動産投資信託	9.1%
6 MFS外国株グロース・ファンドF(適格機関投資家専用)	海外株式	4.8%
7 ストラテジック・バリュー・オープンF(適格機関投資家専用)	日本株式	3.8%
8 三菱UFJ日本株スタイル・ミックス・ファンドF(適格機関投資家限定)	日本株式	3.7%
9 GIMエマージング株式ファンドF(適格機関投資家専用)	エマージング株式	2.9%
10 シュローダー・グローバル・エマージング株式ファンドF(適格機関投資家専用)	エマージング株式	2.0%

・比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)

■年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2024年は年初から7月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

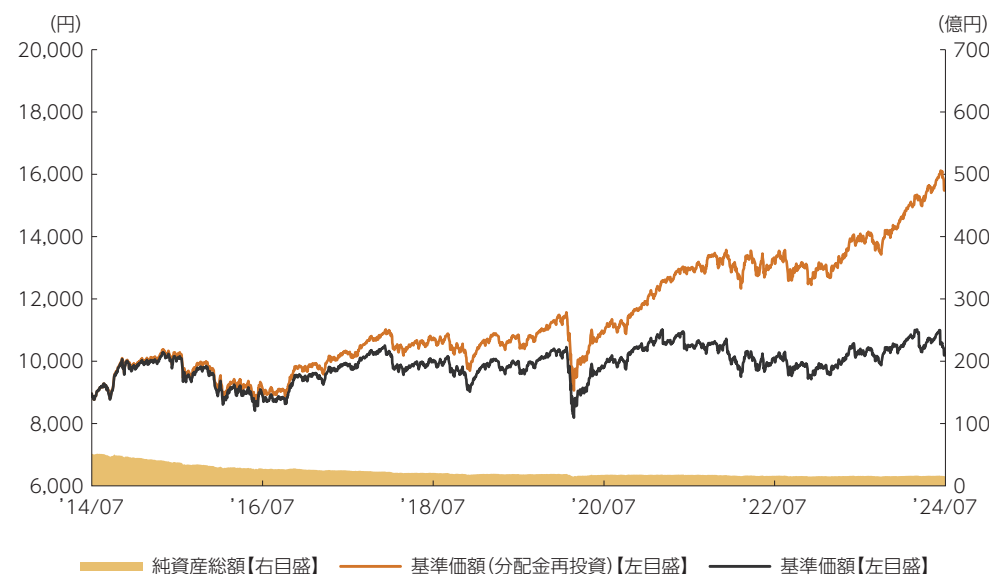


運用実績

2024年7月31日現在

三菱UFJ 資産設計ファンド(バランス型)

■基準価額・純資産の推移 2014年7月31日～2024年7月31日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,205円
純資産総額	15.5億円

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2024年 7月	465円
2024年 4月	475円
2024年 1月	245円
2023年 10月	35円
2023年 7月	195円
2023年 4月	30円
直近1年間累計	1,220円
設定来累計	5,520円

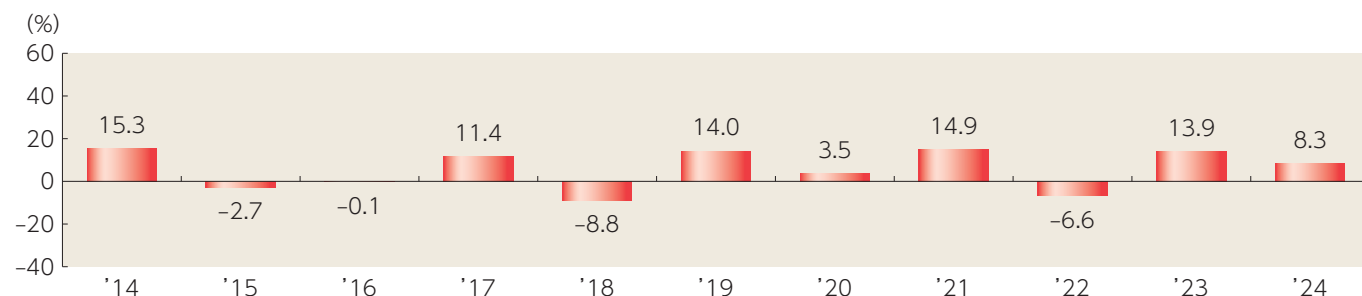
●分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

組入上位銘柄	資産クラス	比率
1 MFS外国株グロース・ファンドF(適格機関投資家専用)	海外株式	24.7%
2 グローバル債券コア・ファンド(適格機関投資家専用)	海外債券	19.7%
3 グローバル・アセット・モデル・ファンドF(適格機関投資家専用)	絶対収益追求型運用	9.9%
4 MUAM G-REITマザーファンド	不動産投資信託	9.3%
5 ノムラ日本債券オープンF(適格機関投資家専用)	日本債券	5.0%
6 ベアリングス・グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド	ハイイールド債券	4.9%
7 三菱UFJ 日本債券ファンドF(適格機関投資家限定)	日本債券	4.9%
8 アライアンス・バースタイン・エマージング市場債券ファンドB(適格機関投資家専用)	エマージング債券	4.8%
9 ストラテジック・バリュー・オープンF(適格機関投資家専用)	日本株式	3.9%
10 三菱UFJ日本株スタイル・ミックス・ファンドF(適格機関投資家限定)	日本株式	3.8%

●比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)

■年間収益率の推移

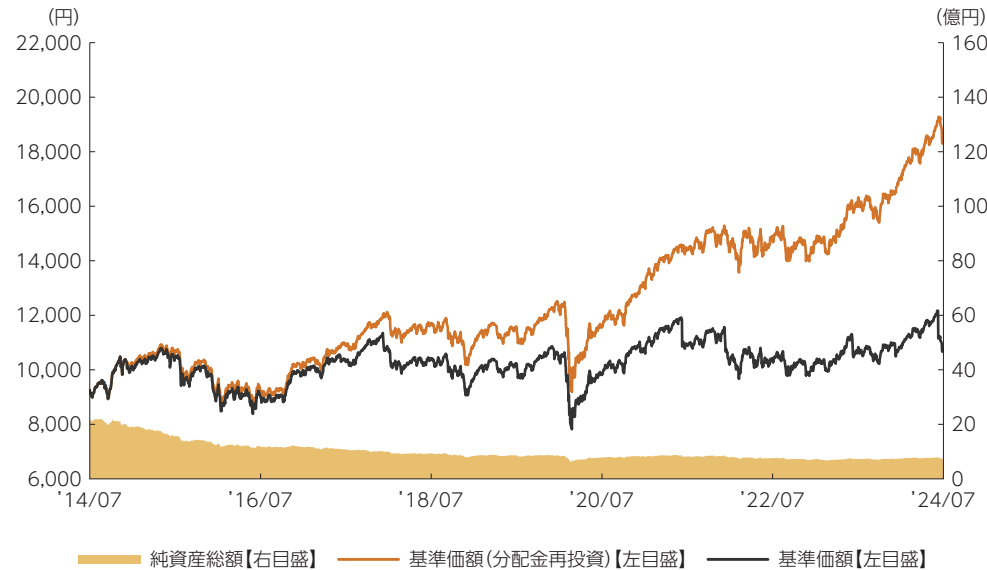


- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2024年は年初から7月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ 資産設計ファンド(株式重視型)

■基準価額・純資産の推移 2014年7月31日～2024年7月31日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

基準価額	10,699円
純資産総額	7.3億円

•純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

2024年 7月	1,020円
2024年 1月	455円
2023年 7月	540円
2023年 1月	25円
2022年 7月	190円
2022年 1月	665円
設定来累計	6,705円

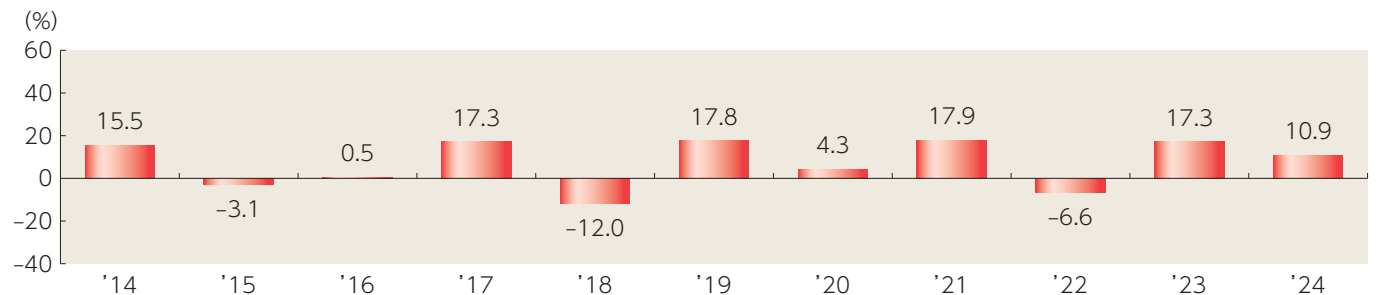
•分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

組入上位銘柄	資産クラス	比率
1 MFS外国株グロース・ファンドF(適格機関投資家専用)	海外株式	29.7%
2 グローバル・アセット・モデル・ファンドF(適格機関投資家専用)	絶対収益追求型運用	9.9%
3 グローバル債券コア・ファンド(適格機関投資家専用)	海外債券	9.8%
4 MUAM G-REITマザーファンド	不動産投資信託	9.1%
5 三菱UFJ日本株スタイル・ミックス・ファンドF(適格機関投資家限定)	日本株式	7.9%
6 ストラテジック・バリュー・オープンF(適格機関投資家専用)	日本株式	7.8%
7 GIMエマージング株式ファンドF(適格機関投資家専用)	エマージング株式	5.7%
8 ベアリングス・グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド	ハイイールド債券	5.1%
9 アライアンス・バースタイン・エマージング市場債券ファンドB(適格機関投資家専用)	エマージング債券	4.8%
10 GIMザ・ジャパン(適格機関投資家専用)	日本株式	4.0%

•比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)

■年間収益率の推移



- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2024年は年初から7月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。



</

■ファンドの費用・税金



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	支払先	購入時手数料	対価として提供する役務の内容
	販売会社	購入価額に対して、 上限2.2% (税抜 2%) (販売会社が定めます)	ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)			
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.2% をかけた額		

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	各ファンド	各ファンドの日々の純資産総額に対して、次に掲げる率をかけた額とします。				
		信託報酬率				
		分配型	年率0.935%(税抜 年率0.85%)			
		バランス型	年率1.045%(税抜 年率0.95%)			
		株式重視型	年率1.155%(税抜 年率1.05%)			
		1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365)				
		※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。				
		各支払先への配分(税抜)は、次の通りです。				
		支払先	配分(税抜)			対価として提供する役務の内容
			分配型	バランス型	株式重視型	
委託会社	0.36%	0.41%	0.46%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等		
販売会社	0.45%	0.5%	0.55%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等		
受託会社	0.04%			ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等		
※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります。						
投資対象とする 投資信託証券	各ファンドの投資対象ファンドの純資産総額に対して、次に掲げる率をかけた額とします。					
	分配型	年率0.64%～0.67%(税込)程度				
	バランス型	年率0.63%～0.67%(税込)程度				
	株式重視型	年率0.71%～0.76%(税込)程度				
	(運用および管理等にかかる費用)					
実質的な負担	各ファンドの純資産総額に対して、次に掲げる率をかけた額となります。					
	分配型	年率1.57%～1.60%(税込)程度				
	バランス型	年率1.68%～1.72%(税込)程度				
	株式重視型	年率1.87%～1.92%(税込)程度				
	※投資対象とする投資信託証券における料率を含めた実質的な信託報酬率(概算値)を算出したものです。各投資信託証券への投資比率が変動する可能性や投資信託証券の変更の可能性があること、また別途成功報酬がかかる投資信託証券が含まれていることから、実質的な料率は変動します。したがって事前に固定の料率、上限額等を表示することはできません。					
	※上場投資信託(リート)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示しておりません。					



手続・手数料等

その他の費用・手数料

以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。

- ・監査法人に支払われるファンドの監査費用
- ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
- ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
- ・投資対象とする投資信託証券の換金に伴う信託財産留保額
- ・投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等
- ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等

※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。



税金

税金は以下の表に記載の時期に適用されます。この表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は2024年7月末現在のものです。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。

(参考情報) ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間(以下「当期間」といいます。)(2024年1月10日～2024年7月9日)における当ファンドの総経費率は以下の通りです。

	総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
三菱UFJ 資産設計ファンド(分配型)	1.63%	1.57%	0.06%
三菱UFJ 資産設計ファンド(バランス型)	1.75%	1.68%	0.07%
三菱UFJ 資産設計ファンド(株式重視型)	1.97%	1.88%	0.09%

(比率は年率、表示桁数未満四捨五入)

※当期間の運用・管理にかかった費用の総額(原則として購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。)を当期間の平均受益権口数に平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除しています。

※①の運用管理費用には投資先ファンドの運用管理費用を含みます。

※投資先ファンドの費用は対象期間が異なる場合があります。

※入手し得る情報において含まれていない費用はありません。

詳細につきましては、当期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

MEMO



目論見書を読み解くガイド

https://www.am.mufg.jp/basic/first_time/faqpoint/index.html